

給食だより

令和2年1月
野尻学校給食センター
第9号

2019年も残りわずかとなりました。1年間を健康に過ごすことができましたか？冬休みは、大みそかやお正月などの行事があり、家族や親戚と過ごす機会も増えます。この機会を利用して、大みそかやお正月の行事食の由来などについて、家族で語り合ってみてはいかがでしょうか？

願いが込められている おせち料理

「おせち料理」は、もともと節日に神様に供えるものでした。旧暦の季節のかわり目を「節句」ということから、その時にお供えた料理を「おせち料理」といい、のちに正月のみに出されるようになりました。



おせち料理の由来

《海老》

腰が曲がるまで長生きができるようにという願いが込められています。



《数の子》

数の子はにしんの卵。子宝と子孫繁栄の願いが込められています。

《黒豆》

豆で健康に暮らせますようにという願いが込められています。

《栗きんとん》

黄金色に輝く財宝にたとえて、豊かな1年を願う料理です。

《紅白蒲鉾》

蒲鉾は「白の出」を象徴するものとして、元旦にはなくてはならない料理です。

ななくさ せっく 七草の節句

七草は1月7日で五節句のひとつです。この日に、「せり、なすな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すすな(かぶ)、すすしろ(大根)」の入った七草粥を食べます。お正月の疲れた胃腸をいたわり、青菜の不足しがちな冬場の栄養補給をする効用もあり、この日に七草粥を食べることで新年の無病息災を願うようになりました。

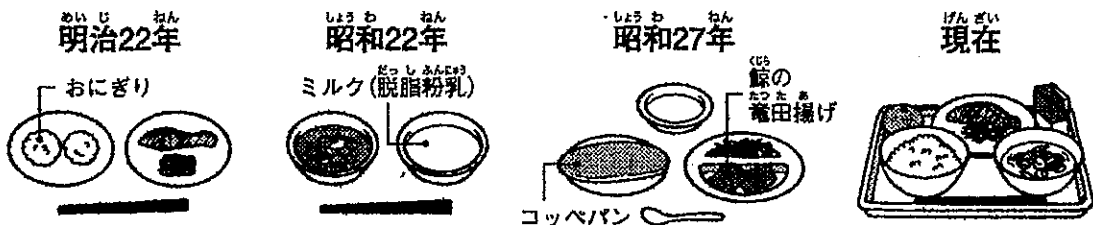


◇ 給食では1月7日に「七草ごはん」を提供します。

1月24日から30日は全国学校給食週間です

学校給食は、明治22年に山形県の忠愛小学校で、貧困児童を対象に無償で昼食を提供したのが始まりとされています。当時の献立は、焼魚、おにぎり、漬物が出されたと言われています。その後、さまざまな歴史を経て、今に至ります。全国学校給食週間を通して、改めて食と健康について家族みんなで考える1週間にしてほしいと思います。

《給食の歴史》



◇ 野尻学校給食センターでは1月20日(月)～24日(金)の1週間を給食感謝週間とし、学校給食の歴史を知る献立を実施します。

給食センター見学

12月3日(火) 野尻小学校2年生
12月10日(火) 紙屋小学校2年生

野菜を切っている様子や調理している様子を見られました。調理に使うものと同様の器具を使って汁物を食缶に入れる体験をし、重さを実感してもらいました。



お礼のお手紙をもらいました。

思ったより重いな～

大きな機械がいっぱいある！！